

校長通信

(教職員版) 第5号 2019. 7. 1

JTB主催のSDGsワークショップに行ってきました！

留学生とのSDGsはかなり刺激的！

【1】はじめに

6月29日 13:00からJTBが主催するSDGsのワークショップに参加してきました。ワークショップは、2部構成。1部は、この前のワールドスタディズの生徒も体験したSDGsの世界を体験する「2030SDGsカードゲーム」、2部は京都大学の留学生とのコラボレーションで、「母国が抱える課題と起こしたい変化」にSDGsの視点で解決策を考えるワークショップです。

最初に「なぜJTBがSDGs？」と思われるかもしれませんが、JTBは、単に学校の教育旅行（修学旅行等）を提供するだけではなく、近年かなり豊富な教育プログラムを開発しています。

<https://www.jtbbwt.com/service/educational/edu-support.html>

にアクセスするか、「JTB 教育プログラム」で検索してください。今回のSDGsについても、特に第二部はJTBの商品の一環として開発されたもので、かなり有意義でした。

参加校は、次のようになっています。

公立：3校

私立：12校

相変わらず、私学の反応は速く、公立は鈍いですね。■■校は、SDGsの教職員研修も行い、生徒のカードゲーム体験も取り入れ、積極的に行っています。

さて、それでは、今回のワークショップの紹介をしていきましょう。

【2】第一部 2030SDGsカードゲーム

第一部は、2030SDGsカードゲーム体験。私は昨年12月27日にイマココラボが主催するワークショップに自費で参加して体験していましたので、2度目の体験。ですが、初回の人々が3/4ほどいる中でのカードゲームでした。

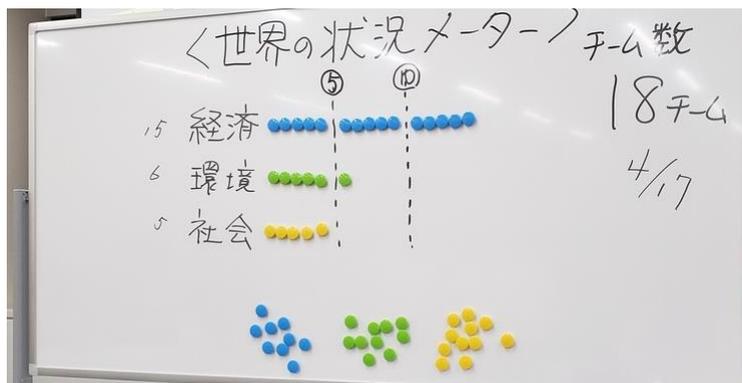
(1) カードゲームのやり方

カードゲームのやり方は簡単で、自分のチームに与えられたゴールをカネと時間を使ってプロジェクトを行うことで達成するというゲームです。プロジェクトを一つ行う度に、世界のバロメーターである「経済」「環境」「社会」が変化していきます。つまり、自分たちのゴールを達成することで世界に影響を与えていくので、どのように振舞うかが問題です。

ゴールには、5つの種類があります。

例えば、「大いなる富」というお金が一番大事という価値観を持ったゴール、「悠々自適」という時間がゆったりたっぷりあるのが幸せだというゴール、環境を守りたいという「環境保護の闘士」という感じです。「環境保護の闘志」のゴールは、環境を表した「緑の意思カード」を10枚以上（チームが15以上の時は、6枚以上）獲得すべしというようにゴールが決められています。そして、現実社会と同じようにチーム間交渉もOK！取引、プロジェクトの売買、多国間交渉有りのゲームです。

ゲームは、前半8分、後半13分で行われます。なぜ、前後半に分かれているかというと、前半のチームの動きで



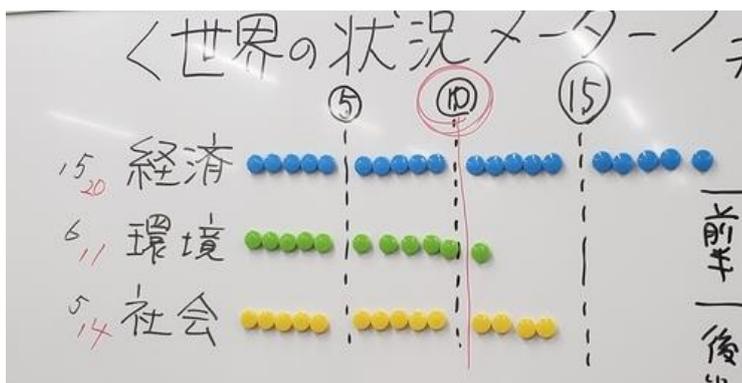
世界のバロメーターがどうなったかを振り返るため。そして、前半を踏まえて後半にどのようにチームが動くかを考えるためです。

(2) さて、私のチームは・・・？

■■の校長とコンビを組んだ私たちのチームは、「環境保護の闘士」。全部で17チームの参加なので、緑の意思を6枚以上集めることがゴールです。手持ちの2つのプロジェクトのうちの1つは、すぐに環境に貢献できるプロジェクトで、緑の意思カードを1枚ゲットできましたが、もう一つのプロジェクトカードは、ハードルが高くてすぐには実行できません

ん。そこで、プロジェクトの売買交渉で2国間交渉を開始。そんなことをしている間に、前半戦が終了しました。その結果、世界のバロメーターはどうなったか？写真にあるように、経済15、環境6、社会5のかなりいびつな社会です。バランスがとても悪い社会が出現してしまいました。また、ゴールが達成できたチームも17チーム中4チームだけと、各チームの動きもとても鈍い状況です。「環境保護の闘士」としては、捨て置けない状況です。ところが、手持ちには、環境保護のためのプロジェクトを遂行するための金も時間もないという最貧国になってしまい、手の打ちようがありません。そこで、最後の手に打って出ました。参加しているチーム全体に、

「環境を守るためにお金と時間を寄付してください！」



と訴えました。温暖化対策のためのお金が1200必要、時間が8必要なのです。これに呼応してお金が余っているチームから寄付が集まり、お金問題をクリア！ところが、時間が集まらず、結局、最後のプロジェクトが実行できませんでした。どこかに、トランプのような温暖化問題に関心がないチームがあったのかもしれませんが。それでも、2030年の世界はだいぶバランスを取り戻しました。環境ポイントが6→11に、社会ポイントが5→14に伸びたのです。私たちのチームは、11ポイントのうち、5ポイント貢献しました。

【3】如何に「ジブンゴト化」するか？

これでカードゲームは終了ですが、ここからが重要です。自分のチームがとった行動が世界に影響を及ぼすことを体験した後で、如何にこのSDGsを「ジブンゴト化するか？」という問題です。ワークショップの後でも振り返りが行われ、いろいろな意見が飛び交いました。私が提案した「環境保護のための寄付」について、「前半は、自分のチームのゴールばかり（つまり自国の利益）に目がいって、あのような呼びかけをすることに頭が回らなかった」という意見もありました。

私は、このSDGsを教育に取り入れたいと考えていますので、このカードゲーム体験をした生徒たちが、どのような学びを得たかを紹介したいと思います。すべてJTBのファシリテーターである小野田さんの実践による感想です。

世界の貧困問題は、TVや授業などで、いろいろな場で触れることが多かったけど、改めてよく学んだり、聞いてみたりしたら、さらに深刻さがわかったし、自分が思っているより地球は狭くて、先進国の技術がさらに発展していくぶん、発展途上国に大きく影響していくことがわかった。人が住みやすい国を作るのは、発展途上国も先進国も同じ立場であって、先進国の私たちが良い思いをして、発展途上国の人がさらに苦しむなら、意味はないと思うので、SDGsを通じてどちらもよい方向に向上されるのができることが大切だと思った。

SDGsは世界中の人が知るべきだと思うし、もっともっと世界にひろめていくべきだと思う。そして私自身もこれからSDGsについて知る必要があると思った。(高校2年生)

このワークショップでは、前半自分の利益しか考えておらず、そのために環境や社会がどうなってもきにならなかったが、後半、自分の目標が達成してようやく周りの状況が見え始めた。時間が足りない人、お金が欲しい人、環境が悪いためにそれを実行できない人、自分がやった行動が多くの人に影響を与えていました。そして、それは他の人も同じく自分を優先し終わって初めて、自分がしたことと現状が見えてきました。

私はこのことに気づいたときに、こう思いました。自分たちがやる前に、気づけたのではないかと。ちゃんと最初から皆と話し合っ、みんなと一緒にゴールを目指せたのではないかと。そうしていれば広い視野で物事を見て、違う世界が実現できたのではないのでしょうか？今日、このワークショップで気づけたことを生かして、今後私たちがしたいこと、すべきことを世界の現状とともにしていきたいと思います。(高校2年生)

普段、なにげなく利用しているものが、地球温暖化に大きな影響を及ぼしていて、それによって、環境破壊や貧困問題などで困っている人がいることに改めて気づきました。

一人一人が今後どうすべきかをしっかり考え、行動していくことが大切だと感じました。私にもできることがあると思うので、何をすべきかを真剣に考え、行動に移していきたいと思います。

とても良い勉強になりました。ありがとうございます。(高校1年生)

自分の住んでいる地球の小ささを改めて感じた。世界はもう国別ではなく、一つの世界として地球と向き合うべきだと考える。

小さな一人の行動を多くの人にむけて発信できる今だからこそ環境を守っていく思想を伝えるチャンスだと思う。(高校1年生)

如何ですか？かなり教育的効果が大きいと思うのですが・・・、SDGsは、

さて、もう一つのワークショップを紹介します。

【4】留学生からの“問題提起”



第二部は、私も初めての体験、留学生からの問題提起をSDGsの視点で考えるワークショップです。今回の留学生は、京都大学に学ぶ5人の留学生。バングラデシュ、インド、フランス、ロシア、チリ出身の5人です。私は、インドのチームに所属しました。問題提起をしてくれるのは、Kabya。京都大学でエネルギー工学を学んでいます。彼の夢は、「宇宙の太陽エネルギー関連の機関で働くこと」らしいです。写真の人です。

彼が提起する母国の問題は、ズバリ、「水問題」。インドでは、南部を中心に水不足が深刻化している。水を巡って暴動でさえ起こっているということです。原因は、地球温暖化。彼が見せてくれた写真では、2018年には水を湛えていた湖が、2019年にはほぼ干上がっているということです。インドには、雨季と乾季があるにもかかわらず、だんだん雨季に雨が降らなくなっているということです。

びっくりしたのは、政府はこの水問題の解決のために、「列車で水を運んでいる」ということ。かなり深刻な状態が分かります。

ワークショップは、彼の問題提起を受けて、マインドマップの作成をしていきます。■■の英語の先生が中心になってKabyaとの会話を進め、作成していきました。

そして、最後は、SDGsのカードゲームに設定されているプロジェクト一覧から、この問題を解決するためのプロジェクトを5つ選択し、優先順位をつけていく作業です。

5つのプロジェクトを選ぶのですが、選んだ後に、ここで私と■■の先生たちの中で議論が起きました。それは、水を恒常的に得るための施策をどうするかという問題です。■■の先生たちは、科学技術の発達により「海水を真水に変えることに資金を投入すること」。私は「ガンジス川の上流から灌漑施設を建設すること」です。初期投資は、圧倒的に灌漑施設がコスト高です。しかし、施設は一旦建設すれば、あとはメンテナンスに資金を投入すればよいの

ですが、海水を真水に変えるには、ほぼ半永久的に資金とエネルギーを消費します。かなり真剣に討論して、興味深かったです。この後で、各グループからの報告があり、全体でシェアを行いました。

このプロジェクトを企画したのは、JTB と提携している株式会社 LbE Japan という会社です。この企画は、

「Global Village for SDGs」

という名称です。留学生という世界中から集まった「人」を入りに「英語」で「リアル」な課題にふれ、世界とのつながりに気づくプログラムです。プログラムは、3ステップ。今回のように

1. 留学生の母国が抱える課題は何ですか？
2. 留学生の母国の状況と比較して日本はどうですか？
3. お互いの国でどのように、「暮らしたい世界」を実現できますか？

という内容です。

実は、この会社とのコラボで、前任校の〇〇高校で今年実施する修学旅行が、APUの留学生との交流なのです。「英語を使って世界を視野に志を学ぶ」という内容です。

さて、ここで提案です。このプログラムを修学旅行で取り入れませんか？北海道では、北大の留学生がこのプログラムに組織されています。

なぜこのような提案をするか？

一つは、現状の修学旅行のプログラムがどこまで教育的効果があるかという疑問です。今回の23期生の修学旅行。1日目は大阪→仙台→青森の移動日。2・3日目は1年生の時に組んだグループでの活動。4日目は帰阪のための移動日です。このグループ活動はどこまで教育的学びがあったのでしょうか。私の眼には、グループの観光旅行を学校が組織して、全員で連れて行ったグループ旅行の集合体のように見えるのですが、それは言い過ぎですか？そして、このグループ活動も様々なアクティビティや観光をするだけのように思います。教頭先生が送ってくれた「今日の一押し」の写真を見て、「1日楽しかったのだろう・・・」とは思いましたが、「はて？何を学んだのだろう？」と疑問を持ちました。修学旅行は学校が行う企画です。そこには学びが無ければなりません。それが根底にあって、はじめて楽しさがあると思っています。確かに自分たちが「自由に」行動して満足度は高いでしょうが、何回も言いますが、「そこに学びはあるのか？」と疑問に思います。

その意味で、二つ目は、修学旅行は探究の場であるべきだということです。進学校として存在している全国の総合学科では、修学旅行を学びの場、探求の場として活用しています。例えば、広島県立福山誠ノ館高校の修学旅行は、2日目に起業研修、3日目にアスリートの講話を行っています。同じ広島県の尾道北高校では、東京方面に修学旅行に行き、1日目は美術館、博物館めぐり、2日目は企業人を呼んでのパネルディスカッション、午後は、自分たちがアポイントを取った企業や研究所の訪問を行います（写真）。3日目も研修



②としてJICAや東京都立産業技術研究センターを訪問しています。そして最後が、TDLです。宮城県の宮城野高校も東京の修学旅行で企業や大学を訪問しています。大分西高校では、海外の修学旅行で、「夢ナビ研修」というものを実施しています。

これらの偏差値同レベルの総合学科と比較して、△△のスクーリングは、どうですか？学びや探究の要素がそこにありますか？内容を検討したほうが良いと思います。自分たちで「考える」のは、観光やアクティビティではなく、どの人（企業・研究所や博物館）に出会って、何を学びたいかだと思います。それが、学校が行う教育でしょう。

以上が、今回のJTB主催のワークショップで考えたことです。先生方の活発な意見交換をお願いします。

追伸。SDGsの教職員研修は、実施する方向で検討しています。